

# jfunu Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会  
 〒 150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70  
 TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349  
 URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail [jf@unu.edu](mailto:jf@unu.edu)

■ 国連大学新学長にマローン博士	P1
■ 国連大学協力会 2012 年度活動報告	P1 - 4
● 基本方針	P1
● 寄付金募集活動 / 広報活動 / シンポジウム	P2
● 助成活動	P3
● 協力事業	P4
● 決算概要等	別紙

## 国連大学新学長にデイビッド・マローン博士

3月1日、コンラッド・オスターヴァルダー前学長の後任として、カナダのデイビッド・マローン博士が第6代国連大学学長に就任しました。学長の任期は5年で、マローン博士は在任中、国連事務次長の役職に就きます。

マローン博士は、国連大学学長就任前は、開発途上国における政策関連の研究を支援する機関であるカナダ国際開発研究センターの所長を2008年から務めていました。



マローン新学長は、「私にとって、これまでに国連大学とともに仕事をしたこと、国連大学の複数のプロジェクトに参加したこと、これらのすべての経験は大変貴重な財産となっています。前任者のコンラッド・オスターヴァルダー氏が、国連大学の研究と学術分野の能力強化に尽力したことに感謝します。」と述べ、さらに「これからは、世界各国の国連大学の活動を推進している研究チームへの造詣を深め、その研究チームに従事している教授陣や学生の皆さんとお会いすることを非常に楽しみにしています」と語っています。

### 【デイビッド・マローン新学長の略歴】

デイビッド・マローン博士は、2008年から2013年まで開発途上国における政策関連の研究支援、資金提供

を行なう機関であるカナダ国際開発研究センターの所長を務めました。それ以前は、国連経済社会理事会のカナダ代表、国連のカナダ大使および代表部次席代表を歴任（1990-1994年）。さらに、カナダ外務・国際貿易省（DFAIT）の政策、国際機関、地球規模問題局局长（1994-1998年）、ニューヨークの独立した研究・政策開発機関である国際平和アカデミー（現国際平和研究所）の所長（1998-2004年）、カナダ外務・国際貿易省次官補（地球規模問題担当）（2004-2006年）、カナダの駐インド高等弁務官、ブータンおよびネパールの非常駐大使（2006-2008年）を務めました。

モントリオール商科大学から経営学士号、アメリカン大学（カイロ）からアラビア語修了証書、ハーバード大学ケネディ行政大学院から行政学修士号、オックスフォード大学から国際関係の博士号を取得しています。

また平和と安全保障問題に関して幅広く論文等を発表。近著に、『Nepal in Transition: From People's War to Fragile Peace（転換期のネパール：人民戦争から脆弱な平和へ）』（共編、2012年、ケンブリッジ大学出版局）や『Does the Elephant Dance? Contemporary Indian Foreign Policy（ゾウは踊るか？インドの現代外交政策）』（2011年、オックスフォード大学出版局）などがあります。

## 公益財団法人 国連大学協力会 2012 年度活動報告

### ■ 活動の基本方針

国連大学大学院「サステナビリティと平和研究科」は、サステナビリティ、気候変動、開発、平和構築、人権といった国連及びその加盟国が直面している喫緊の地球規模課題に対して、自然科学、社会科学、人文科学を融合させた学際的なアプローチによって、幅広い理解と卓越した問題解決能力をもって取り組む人材の育成を目指しています。2012年度には博士課程も開設し、受験者層における国際的認知度も高まっています。

### サステナビリティと平和研究科 年度別出願者数・合格者数

年度	出願者数	出願者出身国数	合格者数	課程
2010年度	84	34	5	修士課程
2011年度	283	70	12	
2012年度	915	90	16	博士課程
	35	21	3	

昨年7月には、はじめて3名の修士課程修了生を輩出し、それらの修了生は、現在、国際研究機関の研究者や母国と国際機関との連携のためのコンサルタント事業を立ち上げるな

ど、国連大学の教育目標にかなった職業人としてのスタートを切っています。今後、国連大学の修了生が国連機関その他の国際機関、政府関係機関、国際 NGO 等において、地球規模課題の解決に大きく貢献することが期待されます。

そこで国連大学協力会 (jfUNU) の 2012 年度の事業活動は、端緒について国連大学の大学院教育に対する我が国国民の関心を一層高め、また、UNU-ISP 大学院学生への奨学金支援が当初の計画通り実現するよう体制を整備し、さらに国連大学高等研究所 (UNU-IAS) の教育活動についても支援を強化するための戦略的な取り組みを積極的に展開し、本法人の公益事業の活性化を図ることを基本方針としました。

## ■ 国連大学支援寄付金募金活動

国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本の現在のみならず将来にとっても重要な意義を持つ国際機関です。しかしながら、国連大学の大学運営予算は、通常の国連予算 (各国の分担金による) からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金 (任意の提供金) によって運営されています。これらのことに鑑み、jfUNU は、従前より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を確保するため寄付金募集活動を実施してきました。

### ● UNU-ISP 大学院支援募金活動

この大学院の入学定員は、修士課程 20 名・博士課程 10 名で、修士 (MSc サステナビリティ・開発・平和学) 及び博士 (PhD サステナビリティ学) で、2011 年度以降、入学学生の数も増加し、かつ学年進行とともに奨学金を必要とする学生の需要も高まりました。学生への奨学助成は、安定的、継続的に助成することが必要であり、従来に引き続き、この賛助会員システムによって行い、賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民へも jfSchoraship for UNU 賛助会員への参加を呼びかけました。2012 年度において本法人が受け入れた個人及び法人・団体からの当該寄付金の総額は 11,310,000 円でした。

### ● 一般寄付金、賛助会員募集活動

さらに、従来より継続的に実施している任意の時期に任意の寄付金を幅広く国民各層から受け入れる「一般寄付金」及び個人及び法人・団体からの「一般賛助会費」による寄付金募集活動を展開しました。

一般寄付制度には指定寄付制度を導入し、寄付者がその関心に応じて、国連大学又は本法人の特定の事業を指定して寄付することも可能としています。2012 年度において本法人が受け入れた個人及び法人・団体からの一般寄付金は指定寄付のみであり、その総額は 14,521,545 円でした。

また、2012 年度において、一般賛助会費収入の合計

は 870,000 円で、会員種別による内訳は個人会員 62 件、法人会員 3 件でした。

## ■ 国連大学の活動及び地球規模課題解決に係る広報・キャンペーン

国民の各層に、緊急の地球規模課題を解決することが人類の平和と発展に不可欠であることを周知させるとともに、その課題解決に取り組む国連大学及び本法人の活動に対し、幅広く理解と関心を高め、人々や企業から支持が得られるよう、広報・キャンペーンを行いました。

### ● 広報資料の作成・頒布

ニュースレターを発行し、大学院の設置に伴ないカリキュラム内容や学生の研究テーマなど、より具体的に教育活動の様子を伝えました。

### ● 各種パンフレットの発行等

国連大学と本法人の活動内容をより具体的に伝えるよう、各種パンフレットを制作・改定し、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めました。

### ● インターネットによるキャンペーン

インターネット及びソーシャルメディア (ツイッター) による広報展開を拡充し、イベント情報の積極的な告知やニュースレターの記事転載を行うとともに、UNU-ISP ウェブサイトとの連携を図りながら、国連大学とその活動内容をより広範に紹介しました。

### ● レクチャーシリーズの発刊

2012 年度は、2010 年 9 月に実施したシンポジウム「サステナビリティと平和」及び 2011 年 11 月に実施した「持続可能性とリスクマネジメント」の内容を編集・収録し、それぞれシリーズ 5、6 巻目として刊行しました。



## ■ 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等

国民の各界各層に、人類の生存や福祉、発展に関わる緊急の地球規模課題解決のための知識を深めてもらうために、国連大学の教育・研究成果の公開を主にしながら人々の関心を高め、特に若年層の育成に資するため、セミナー・シンポジウムを行いました。

### ● グローバル・セミナー東北

2012 年 2 月 16 日に東北大学、国連大学とともに「グローバル・セミナー東北 震災復興と生態適応 ～国連生物多様性の 10 年と RIO + 20 に向けて～」を開催しました。同セミナーでは、スウェーデンを環境先進国へと導いた立役者の一人であるトルビョーン・ラーティ氏



を基調講演者として招き、氏自身が中心となって取り組んだスウェーデンや他の国々におけるエコ自治体運動についても紹介されました。続く課題提起では3人のスピーカーがそれぞれの専門の立場から、被災状況を分析しつつ、社会の多様性を活かした仕組みづくりや新たな視点による震災復興のあり方を提案しました。さらにパネルディスカッションでは行政関係者の参加も交え、復興へ向けた取組みの進捗状況や今後の施策が報告されたほか、パネリストから多角的な観点により震災復興と生態適応というテーマに考察が加えられました。



### ● UNU / jfUNU ジュニアフェロー・シンポジウム 2012

「jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム」は、2006年以來、国連大学本部の実施する人材育成コース修了者のフォローアップと修了生同士の連携の場を提供することを目的として、国連大学協働会と国連大学の共催によって実施されてきました。

2012年度は、国連大学創設以來、初めての大学院修了生を送る年にあたったことから、大学院第一期修了生を含む国内外から修了生を招聘し、また、国連大学在学中の大学院生たちを交えて、地球規模課題に関する今後の喫緊の課題をテーマとしたシンポジウムとワークショップを11月22、23日に開きました。

広く一般にも公開された初日のシンポジウムでは、従来、ともすると分離された形で議論される傾向が強かった「環境・開発」と「平和」をサステナビリティの観点から統合的に捉えることによって、人類と地球環境の持続性を探求することを目的としました。基調講演者には、原子力規制委員会委員で、元国連事務次長・前



JICA 副理事長等の経験を有する大島賢三氏を迎え、自然災害に関する国連を中心とする様々な国際的取り組み、国際協力の現状について解説がなされました。続くショートスピーチでは、3人の専門家から、人々が互いの文化的・社会的な多様性を尊重し合い、国家間においても相互の利害を調整し合い、よりよい社会を築いていく「未来共生」の概念が提示されたほか、「人間の安全保障と平和」ならびに「サステナビリティ」をミッションの中心に置きつつ「環境」と「平和」をつなぐ国連大学の取り組みが紹介されました。さらにパネルディスカッションでは、基調講演とショートスピーチで提起された話題に基づいて議論を展開し、フロアからも積極的な質問がなされ、グローバル化が急速に進展する今日、「サステナビリティ」と「平和」を結びつけ、自然との共生をも平和の課題として追求する取り組みの重要性が確認されました。

第二日目は、国連大学修了生と国連大学大学院在生によるワークショップを行い、前日の議論や修了生たちのその後の経験、知識、今後の展望等を踏まえた様々な角度から、環境と平和について討議し、この課題への多角的な認識を深めました。

### ■ 国連大学への助成活動

国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要なとする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の審議を経て行いました。

#### (1) 国連大学の研究活動への助成

国連大学の研究活動は、緊急の地球規模課題解決のために、世界的なネットワークによって実施され、その成果は国連機関や各国の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元されます。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への助成を行いました。

#### ● アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理プロジェクト

日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学の環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究に対し、助成を行いました。

#### (2) 国連大学の教育活動への助成

国連大学の教育活動は、緊急で世界的・地球規模課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若い人材の育成を目的とする大学院レベルの教育です。学生たちは、これら国連大学の行う教育課程を修了後、それぞれの専門を生かして、世界の緊急課題の現場や学術機関において即戦力として貢献することが期待されます。jfUNUでは、このことの重要性に鑑み、大学院サステナビリティと平和研究科の学生の修学を支援するための助成

と、従来より国連大学本部において実施されている短期研修事業への助成を行いました。

#### ● UNU-ISP 大学院の学生奨学経費助成

この助成事業は、正規の学位授与機能（修士・博士）をもつ大学院研究科の学生たちが、長い場合には5年以上にわたり日本に滞在しながら、学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的としています。助成の内容は、学生の生活費を中心とした補助です。特に開発途上国からの学生への支援を重視しており、2011年度は「jfScholarship for UNU 賛助会員」制度に基づく賛助会員企業からの寄付金を元に、修士課程学生4名および博士課程学生2名の合計6名に奨学金助成を行いました。

#### ● 国連大学グローバル・セミナー

国連大学が行っている研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業です。短期研修（4日間）ですが、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきました。また、同セミナーには、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より強力に支援してきました。2012年度も引き続き「グローバル・セミナー湘南セッション」に助成しました。

#### ● 国連大学サステナビリティと平和研究科への助成

国連大学サステナビリティと平和研究科の行う教育環境にかかる整備費用の一部を助成しました。

#### ● 国連大学高等研究所（UNU-IAS）の行う教育活動に対する助成

横浜に設置されている国連大学高等研究所の教育活動費用の一部を助成しました。

#### (3) 国連大学の教育研究環境整備のための助成

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球規模課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成しました。

#### ● 国連大学本部における教育研究のための施設整備費

#### ● 国連大学図書館の蔵書購入費

### ■ 国際相互理解の促進等に関する事業

緊急で地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠です。jfUNU が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本国に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を



提供しています。

#### ● 国際情報交流事業

国連大学の研修事業は25年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際NGO・大学での研究活動など、緊急で地球規模課題解決を必要とする現場で活動しています。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を欲しています。2012年度は、11月22日にこれらの国連大学修了生とともに、大学院に在籍中の学生も加え、世界各国の学生たちと日本人学生や有識者並びに本法人賛助会員との情報交流の機会を提供しました。

#### ● 日本文化体験事業

国連大学の短期研修講座（単位取得コース）の受講生を対象として、日本文化体験の一環として、10月の研修期間中に歌舞伎見学プログラムを企画・実施しました。

#### ● 大手企業の工場見学

UNU-ISPの大学院生、UNU-IASの大学院生とフェローを対象として、現代日本における先端企業の実態を体験的に理解するための機会提供として、7月にjfScholarship特別賛助会員である住友化学株式会社の千葉県姉ヶ崎工場の見学プログラムを実施しました。



#### ● 国内外の甚大な災害に対する災害復興支援

この事業は2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけとして、甚大な災害から自らの力で復興に取り組む人々や団体に対し、人類の生存と発展にかかわる緊急課題解決の観点から、その取り組みを支援し、助成を行うために実施しました。

助成対象の審査には本法人の助成諮問委員会があたり、審査に際しては国連大学が実施する地球規模課題解決の研究教育活動との関連性を重視しました。2012年度は被災者支援に取り組んでいる1団体へ合計300,000円の寄付を行いました。

jfUNUでは賛助会員を募集しています。  
詳しくはウェブサイトをご覧ください。

国連大学協力会

検索